

**【表紙】**

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成27年8月14日
【四半期会計期間】	第29期第1四半期（自平成27年4月1日至平成27年6月30日）
【会社名】	株式会社フライトホールディングス
【英訳名】	FLIGHT HOLDINGS Inc.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 片山 圭一朗
【本店の所在の場所】	東京都渋谷区恵比寿4 - 6 - 1
【電話番号】	03 - 3440 - 6100
【事務連絡者氏名】	代表取締役副社長 松本 隆男
【最寄りの連絡場所】	東京都渋谷区恵比寿4 - 6 - 1
【電話番号】	03 - 3440 - 6100
【事務連絡者氏名】	代表取締役副社長 松本 隆男
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第28期 第1四半期連結 累計期間	第29期 第1四半期連結 累計期間	第28期
会計期間	自平成26年4月1日 至平成26年6月30日	自平成27年4月1日 至平成27年6月30日	自平成26年4月1日 至平成27年3月31日
売上高 (千円)	359,725	183,153	1,592,476
経常損益(は損失) (千円)	15,373	152,426	62,170
親会社株主に帰属する四半期(当期)純損益(は損失) (千円)	15,733	153,507	84,516
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	15,733	153,507	85,846
純資産額 (千円)	542,725	320,435	473,942
総資産額 (千円)	1,442,307	1,174,105	1,446,134
1株当たり四半期(当期)純損益金額(は損失) (円)	1.66	16.23	8.94
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	37.6	27.3	32.8

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、1株当たり四半期(当期)純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

4. 「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)等を適用し、当第1四半期連結累計期間より、「四半期(当期)純損益(は損失)」を「親会社株主に帰属する四半期(当期)純損益(は損失)」としております。

#### 2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

なお、当第1四半期連結累計期間より、「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 平成25年9月13日）等を適用し、「四半期純損失」を「親会社株主に帰属する四半期純損失」としております。

#### (1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の経済政策等により雇用及び所得環境が改善され、緩やかな回復基調にありますが、新興国経済の減速懸念や欧州債務問題等により、先行き不透明な状況にあります。

このような状況の中、当社グループは、物流企業向けのシステム開発や社会保障・税番号制度（マイナンバー）対応に係るシステム開発支援等を行うとともに、電子決済ソリューション（「Incredist」及び「ペイメント・マイスター」）の販売及び次世代機の開発に注力いたしました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高183百万円（前年同期比49.1%減）、営業損失は143百万円（前年同期は営業損失7百万円）、経常損失は152百万円（前年同期は経常損失15百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は153百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失15百万円）となりました。

(単位：百万円)

	当第1四半期 (連結)	前第1四半期 (連結)	前年同期比	
			増減額	増減率
C & S事業(*)	120	124	4	3.5%
サービス事業	62	235	172	73.5%
ECソリューション事業	5	-	5	-
調整額	5	-	5	-
売上高	183	359	176	49.1%
C & S事業(*)	9	8	1	-
サービス事業	46	52	99	-
ECソリューション事業	19	-	19	-
調整額	67	51	16	-
営業損益	143	7	136	-
経常損益	152	15	137	-
親会社株主に帰属する四半期純損益	153	15	137	-

(\*) C &amp; S事業：コンサルティング&amp;ソリューション事業

セグメントの業績は次のとおりであります。

**コンサルティング&ソリューション事業**

コンサルティング&ソリューション事業においては、既存顧客を中心としたシステム開発及び保守、物流企業向けのシステム開発並びに社会保障・税番号(マイナンバー)対応に係るシステム開発支援等を行いました。

引き合い状況は堅調であり、売上及び営業損益は概ね計画通り進捗しております。

以上の結果、売上高は120百万円(前年同期比3.5%減)、営業損失は9百万円(前年同期は営業損失8百万円)となりました。

**サービス事業**

サービス事業においては、電子決済ソリューション(「Incredist」及び「ペイメント・マイスター」)の販売・提案活動、並びに「Incredist」の次世代機の開発に注力いたしました。

前第1四半期に大型案件の追加納品があったことから、前年同期比では減収減益となりましたが、前期以前に納品した大型案件の保守対応により、売上及び営業利益は概ね計画通り進捗しております。

以上の結果、売上高は62百万円(前年同期比73.5%減)、営業損失は46百万円(前年同期は営業利益52百万円)となりました。

**ECソリューション事業**

ECソリューション事業においては、B2B向けECサイト構築パッケージ「EC-Rider B2B」の営業・提案活動に注力いたしました。

収支につきましては、事業立ち上げのため、固定費が先行して発生しており、営業損失を計上することとなりました。

以上の結果、売上高は5百万円、営業損失は19百万円となりました。

**(2) 財政状態の分析**

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比べ272百万円減少し、1,174百万円となりました。主な増減要因は、売掛金の減少(340百万円減)、現金及び預金の増加(17百万円増)であります。

負債は、前連結会計年度末と比べ118百万円減少し、853百万円となりました。主な増減要因は、買掛金の減少(146百万円減)であります。

純資産は、前連結会計年度末と比べ153百万円減少し、320百万円となりました。主な増減要因は、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上(153百万円)であります。

**(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題**

課題について重要な変更はありません。

**(4) 研究開発活動**

当第1四半期連結累計期間における研究開発活動の金額は、25百万円であります。

サービス事業部において、電子決済ソリューション(「Incredist」及び「ペイメント・マイスター」)の改良(電子マネー及びEMV対応等)、並びに次世代「Incredist」開発のための研究開発活動を行っております。

**(5) 従業員数**

当第1四半期連結累計期間において、従業員数の状況に著しい変動はありません。

## 第3【提出会社の状況】

## 1【株式等の状況】

## (1)【株式の総数等】

## 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	33,000,000
計	33,000,000

## 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成27年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成27年8月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	9,456,500	9,456,500	東京証券取引所 (市場第二部)	単元株式数 100株
計	9,456,500	9,456,500		

(注)平成27年8月1日をもって、当社株式は東京証券取引所マザーズから同取引所市場第二部へ市場変更しております。

## (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

## (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

## (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

## (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数(株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成27年4月1日～ 平成27年6月30日	-	9,456,500	-	1,205,123	-	1,195,798

## (6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

## (7)【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成27年3月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

## 【発行済株式】

平成27年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 800		
完全議決権株式(その他)	普通株式 9,453,600	94,536	
単元未満株式	普通株式 2,100		
発行済株式総数	9,456,500		
総株主の議決権		94,536	

(注)「単元未満株式」欄には、自己株式29株が含まれております。

## 【自己株式等】

平成27年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
株式会社フライトホールディングス	東京都渋谷区恵比寿 4 - 6 - 1	800	-	800	0.01
計		800	-	800	0.01

(注) 「自己名義所有株式数」及び「所有株式数合計」の欄に含まれない単元未満株式が29株あります。なお、当該株式は上表の「単元未満株式」の欄に含まれております。

## 2【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成27年4月1日から平成27年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成27年4月1日から平成27年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について優成監査法人による四半期レビューを受けております。

なお、当社の監査人は次のとおり交代しております。

第28期連結会計年度	仁智監査法人
第29期第1四半期連結会計期間及び第1四半期連結累計期間	優成監査法人

## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成27年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	704,845	721,886
売掛金	392,062	51,663
商品	11,269	10,316
仕掛品	21,663	22,082
その他	43,351	96,839
貸倒引当金	700	100
流動資産合計	1,172,492	902,687
固定資産		
有形固定資産	4,632	5,022
無形固定資産		
のれん	13,777	13,025
その他	15,387	13,975
無形固定資産合計	29,164	27,001
投資その他の資産		
長期貸付金	75,000	75,000
投資不動産(純額)	196,447	196,175
その他	43,397	43,217
貸倒引当金	75,000	75,000
投資その他の資産合計	239,844	239,393
固定資産合計	273,642	271,417
資産合計	1,446,134	1,174,105
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	167,608	21,057
短期借入金	484,348	467,473
未払法人税等	3,426	2,592
賞与引当金	4,810	2,562
受注損失引当金	10,500	-
その他	54,441	116,760
流動負債合計	725,134	610,445
固定負債		
長期借入金	236,459	232,907
その他	10,599	10,318
固定負債合計	247,058	243,225
負債合計	972,192	853,670
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,205,123	1,205,123
資本剰余金	1,195,798	1,195,798
利益剰余金	1,925,704	2,079,211
自己株式	1,275	1,275
株主資本合計	473,942	320,435
純資産合計	473,942	320,435
負債純資産合計	1,446,134	1,174,105



## (2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)
売上高	359,725	183,153
売上原価	259,262	174,264
売上総利益	100,463	8,888
販売費及び一般管理費	107,645	152,861
営業損失( )	7,181	143,973
営業外収益		
受取利息	379	370
受取賃貸料	533	555
その他	36	46
営業外収益合計	949	972
営業外費用		
支払利息	3,205	7,651
不動産賃貸原価	1,175	1,155
その他	4,759	618
営業外費用合計	9,140	9,425
経常損失( )	15,373	152,426
税金等調整前四半期純損失( )	15,373	152,426
法人税、住民税及び事業税	360	1,081
法人税等合計	360	1,081
四半期純損失( )	15,733	153,507
親会社株主に帰属する四半期純損失( )	15,733	153,507

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)
四半期純損失( )	15,733	153,507
四半期包括利益	15,733	153,507
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	15,733	153,507

## 【注記事項】

(会計方針の変更)

(企業結合に関する会計基準等の適用)

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)、「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日)及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日)等を当第1四半期連結会計期間から適用し、四半期純利益等の表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第1四半期連結累計期間については、四半期連結財務諸表の組替えを行っております。

(四半期連結貸借対照表関係)

該当事項はありません。

(四半期連結損益計算書関係)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、重要性が乏しいので記載しておりません。

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)

1. 配当に関する事項

該当事項はありません。

2. 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)

1. 配当に関する事項

該当事項はありません。

2. 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	コンサルティング &ソリューション事業	サービス事業			
売上高					
外部顧客への売上高	124,457	235,267	359,725	-	359,725
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	-	-
計	124,457	235,267	359,725	-	359,725
セグメント利益又は損 失( )	8,532	52,842	44,309	51,491	7,181

(注)1. セグメント利益又は損失の調整額 51,491千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

当第1四半期連結累計期間（自平成27年4月1日 至平成27年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント			合計	調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	コンサルティング &ソリューション 事業	サービス事業	ECソリューション事業			
売上高						
外部顧客への 売上高	120,077	62,430	645	183,153	-	183,153
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	-	-	5,167	5,167	5,167	-
計	120,077	62,430	5,812	188,320	5,167	183,153
セグメント損失 ( )	9,784	46,695	19,547	76,027	67,946	143,973

(注)1. セグメント損失( )の調整額 67,946千円は、セグメント間取引消去74千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 68,020千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント損失( )は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

前第3四半期連結会計期間において、第三者割当増資引受けにより子会社化した株式会社イーシー・ライダー（平成26年11月1日付で「株式会社DRAGON TECHNOLOGY」より商号変更）の事業を「ECソリューション事業」として、前第3四半期連結会計期間より、新たに報告セグメントの区分に追加することといたしました。

「ECソリューション事業」は、B2B向けECサイト構築パッケージ「EC-Rider B2B」の開発及び販売、並びに本パッケージ導入に係るコンサルティングやシステム開発及び保守を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)
1株当たり四半期純損失金額	1円66銭	16円23銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純損失金額(千円)	15,733	153,507
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純損失金額(千円)	15,733	153,507
普通株式の期中平均株式数(株)	9,455,671	9,455,671

(注)潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成27年 8月12日

株式会社フライトホールディングス  
取締役会 御中

## 優成監査法人

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 小松 亮一 印指定社員  
業務執行社員 公認会計士 石上 卓哉 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社フライトホールディングスの平成27年4月1日から平成28年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成27年4月1日から平成27年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成27年4月1日から平成27年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

## 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

## 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

## 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社フライトホールディングス及び連結子会社の平成27年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

## その他の事項

会社の平成27年3月31日をもって終了した前連結会計年度の第1四半期連結会計期間及び第1四半期連結累計期間に係る四半期連結財務諸表並びに前連結会年度の連結財務諸表は、それぞれ、前任監査人によって四半期レビュー及び監査が実施されている。前任監査人は、当該四半期連結財務諸表に対して平成26年8月5日付けで無限定の結論を表明しており、また、当該連結財務諸表に対して平成27年6月25日付けで無限定適正意見を表明している。

## 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. X B R Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。